

佐高信
経済評論家

『サイズ』の六月号が「芸能界最大のタブー」のバーニングプロに迫っている。同プロの社長がドンと呼ばれる周防郁雄。北野誠が無期限謹慎となったのは、このドンを怒らせたからだという。

北野は朝日放送の関西ローカル・ラジオ番組『誠のサイキック青年団』でいろいろ暴露発言をしてきたのだが、周防をヤクザ呼ばわりしたり、周防が寵愛する小泉今日子がある病気だとしやべったのが決定打となったらしい。このプロダクションには郷ひろみ、稲森いずみ、内田有紀、小池徹平らも入っている。

雑誌メディアが報じる芸能プロのスキヤンダル 芸能界最大のタブーと闘うジャーナリストたち

バーニング帝国のタブーには、これまで、『サンデー毎日』などが挑んだ。

二〇〇〇年夏の連載では、浜田幸一元代議士の運転手や新栄プロなどを経て、一九七一年に独立した周防の閨人脈に触れ、フィクサーの許永中や化粧品会社のヴァーナルとの関係などを明らかにしている。当時の『サンデー毎日』編集長が『週刊金曜日』現編集長の北村肇。

当時、この争いを特集した『サイズ』は同年一〇月号でバーニングにコメントを求めている。同プロの担当者も、

「コメントしたくないし、する必要もありません。『サイズ』については今まで我慢してきましたけど、今後何かあったら告訴しますよ」と脅したとか。

連載が四回で終わったため、手打ち説も流れたが、「事情通」はこう言っている。

『サンデー』編集部はバーニングと懇意な関係にある幻冬舎・見城徹社長が乗り込んだり、バーニング側の弁護士が何度も探りの電話を入れたり、担当記者自宅付近に不審人物がうろついたり、いろいろあったようです。また周防氏が頭が上がらないという田辺エー

ジェンシーの田辺昭知社長を仲介に、バーニング側と話し合いが持たれたという話もあります。これに対し北村は、第三者から、こんな忠告を受けたと言っている。

「周防さんは脅したり、圧力をかけたりする人じゃないが、周防さんを慕う部下や世話になっている人のなかには、周防さんを守るために無茶をする奴がいるから気をつけた方がいい」

そして、このドンと闘いつづけてきた芸能ジャーナリストの本多圭がインタビューに応じた。

「周防と暴力団の黒い交際や、メディアコントロールの実態、周防の素顔などを書いて、これまでに五回、名誉毀損での損害賠償を求められて、告訴されてるよ。そのうち四回は向こうが取り下げたり、和解になったりして、判決確定までは行っていない。残りの一件は、現在も控訴審で係争中」

こう語る本多は『週刊新潮』の記者が周防と揉み合ってメガネを壊されたという情報を得て確かめに行ったら、事務所を掃除していた周防にモップを振りまわされたりしたという経験などに触れた後、周防と暴力団の関わりについて書いた話をする。

「僕の記憶だと、具体的に暴力団に関する記述が事実無根だなどと言ってきたことは、ほとんどないと思う。基本的には、記事全体が名誉毀損に当たるといふような主張じゃないかな。鹿岩社から出した『ジャニーズ帝国崩壊』も訴えられたんだけど、その中に、五代目山口組の宅見勝若頭（故人）が上京するとき、周防が六本木の全日空ホテルで頻りに会っていたという目撃情報を記載したんだけど、その部分は争われなかった」

周防を批判して自宅に匿名の電話がかり、受話器をとった本多夫人に、

「周防の同級生だ。今は暴対法があるさくて、組の名前は名乗れないけど、『周防とうまくやれ』って、亭主に言いつけ」

と捨てゼリフを吐いた者もいたという。この芸能界がまた、政界とつながっているわけである。